

Case14 : 脂質代謝改善薬の導入により 高ALPと臨床症状が改善された犬の4例

【Profile】

2013年日本獣医内科学アカデミー 発表症例（椿 直哉先生）より抜粋

■高ALP症と高脂血症：

高ALP血症でありながら一般状態に問題はなく、各種検査によっても疾患の確定診断にまで至らず、原因不明とされる症例が、臨床現場では数多くみられる。

過去の症例・研究報告から、

- ・胆汁鬱滞によるALPの増加がみられる
- ・高脂血症がある場合、ALPとALTの活性が高い

等の情報があることから、新たな鑑別方法として、LipoTESTによる脂質代謝異常症の確認を加え、ALP値の改善を期待して脂質代謝改善治療に取り組み、その効果を検証した。

症例	犬種	体重 (BCS)	実施 検査項目	診断	初診時ALP
1	M・ダックス	8.6kg (5)	CBC,US*,ACTH, LipoTEST	脂質代謝異常症 VLDL増加型	6292
2	T・プードル	7.65kg (4)	CBC,US, LipoTEST	脂質代謝異常症 VLDL増加型	4105
3	M・ピンシャー	5.05kg (3.5)	CBC,US, LipoTEST	脂質代謝異常症 VLDL増加型	581
4	ポメラニアン	2.45kg (3)	CBC,US,BTR**, LipoTEST	脂質代謝異常症 LDL増加型	>3500

US*：腹部超音波画像検査、BTR**：総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比

【治療計画】

- ・ LipoTESTの結果から、4例全てが脂質代謝異常であることが判明した。
- ・ LipoTESTの結果により分類された脂質異常の分類に基づいて、VLDL増加型3例にはクリノフィブラート、LDL増加型1例にはプラバスタチンを使用し、脂質代謝改善薬による治療を開始した。症例3と4については食事療法も併用した。
- ・ 治療開始後1～3カ月後にLipoTESTを含めて再検査を行った。 ⇒ 裏面に続く

【各種データの変化】

症例	犬種	診断	治療	体重変化 (Kg)	ALP変化 (IU/L)	脂質変化 (mg/dL)
1	M・ダックス	脂質代謝異常症 VLDL増加型	クリノフィブラート	8.6→7.8	6292 → 2286	Cho:180→142 TG:295→87
2	T・プードル	脂質代謝異常症 VLDL増加型	クリノフィブラート & おやつ減量	7.65→7.1	4105 → 1942	Cho:289→N.D. TG:195→N.D.
3	M・ピンシャー	脂質代謝異常症 VLDL増加型	クリノフィブラート & 低脂肪食	5.05→4.85	581 → 416	Cho:255→187 TG:933→141
4	ポメラニアン	脂質代謝異常症 LDL増加型	プラバスタチン & 減量用食	2.45→2.25	>3500 → 1874	Cho:440→190 TG:50→54

【解析結果に基づく治療への評価】

- ALPが高度に上昇した症例で、臨床症状が全くない症例において、脂質代謝異常症が存在することが今回確認できた。
- 本症例では、脂質代謝異常症の改善の結果、目的である高ALP血症の改善を達成できた。さらには過剰体重の減少効果も得られた。本症例は病的な肥満であった可能性も考えられた。
- これら症例から高ALP血症の鑑別診断の中に、LipoTESTによる脂質代謝異常症の検査を加える事が有用であると思われる。

症例提供：イオン動物病院相模原 椿 直哉先生 (神奈川県)

◆LipoTESTに関するお問合せ先 スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

* 検体送付キットの請求は、下記記入のうえ、FAX (03-5731-3631) にてご返送下さい。

病院名		氏名	
住所		TEL	

詳しい情報に関しては、LipoTEST Webをご覧ください。URL : <http://www.lipotest.jp/>